

## 【小浜市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

令和6年度小浜市学校教育方針の重点目標に「学校DX（デジタルトランスフォーメーション）」の推進を掲げ、デジタル技術を活用した学校の変革を推進している。

この目標の実現に向けて、各学校では、タブレット端末とデジタル教材の有効活用を研究し、個別最適な学びを推進する。児童生徒一人一人の学習進度や理解度に応じた個別化された学びを支援し、得意な分野を伸ばし、苦手な分野を克服していく。また協働的な課題解決や探究的な学びを通して、問題発見解決能力の育成を目指す。児童生徒が自己成長を実感し、充実した学校生活を送れるよう、児童生徒の資質・能力の育成を推進する。

#### 2 GIGA第1期の総括

##### (1) これまでの経緯

コロナ禍から始まったGIGAスクール構想における1人1台端末の整備により、学校におけるICT環境が大きく変わった。その整備のもと、本市では令和6年度からデジタル技術を活用した学校の変革を掲げ、学校DX（デジタルトランスフォーメーション）を推進している。現在、小浜市学校DX推進本部を組織し、全国の先進地や先進校から学びながら学校DXを進めているところである。全国の先進的な実践を参考に、専門的なアドバイザーからも助言をいただく中で、これまで本市が取り組んできた教育を基軸とし、校務DX、授業DX、研修DXが相似形で進む変革による新しい学校の姿の創造に努めている。

##### (2) 現状と課題

本市では、GIGAスクール構想に基づき、令和2年度末に小・中学校の児童生徒にタブレット端末の配備を完了した。また、全小中学校にタブレット端末を接続するためのネットワークと無線接続環境を整備した。児童生徒一人一人がタブレット端末を活用することで、学習環境の多様化や個々に合った学習に取り組むことができ、児童生徒一人一人に応じた学びを実現するための環境を整備することができた。また令和2年度からICT支援員が各校を巡回し、教員のICT活用促進を図ってきた。さらに、各学校の教室用大型掲示装置の更新を実施し、授業の質向上を目指すICT環境を整備してきた。令和5年度からは市内全小学校、令和6年度には全中学校で統一したデジタルドリルの活用が始まっている。

教職員のDX推進に向けた意識改革は、徐々にではあるが高まってきている。特に、授業でのタブレット端末の活用については意欲的に取り組んでいる現状がある。こうした中で授業づくりにおいては、ICT活用と学びの本質の追究の両立が課題としてあがってきた。また、教員の指導力により教科指導などにおいて端末の活用頻度やデジタル教材の活用場面などに差が見られ、学校や教員間の力量に格差が生じている。この格差は校務に関しても生じており、今後は新たな環境を教師自らが体験することが重要であることから、すべての教員が必然的に共通体験する「校務DX」や教師自らが学び続

けるために必要とする「研修 DX」に注力することが重要となる。

### 3 1人1台端末の利活用方策

小浜市では、GIGA スクール構想第2期において端末を更新し、児童生徒一人一台の端末環境を引き続き維持する。その効果的な利用促進に向けて、以下の取り組みを進めていく。また、第1期で明らかになった課題を踏まえ、端末の利用や運用の質を向上させるために、具体的な対策と改善策を検討していく。

#### (1) 先進的な取り組みの市内各校への展開

令和6年度、本市は文部科学省委託事業である「リーディングDXスクール事業」に参加し、市内小中学校2校が指定校として実践を積んできた。この事業で全国の先進地や先進校の授業等を視察した教職員は延べ35名に上る。好事例を本市に持ち帰り、学校現場に取り入れたことで授業、校務、研修の様子が劇的に変化していく2校の様子は、小浜市の学校変革を象徴するものとなっている。こうした中、これまで進めてきた授業でのICT活用(授業DX)を基盤とし、日常業務である校務としてのICT活用(校務DX)や、教員の自己研鑽の場である研修時の活用(研修DX)に取り組むなど、学校でのICTの普段使いによる教育活動をさらに推進していく。また、その一つとして、文部科学省委託事業である「リーディングDXスクール事業」指定校2校の実践に学び、市内全小中学校に横展開を図ることで、学校間格差や教育格差の解消に取り組んでいく。

#### (2) 個別最適・協働的な学びの充実と新しい授業づくり

1人1台端末の導入により、各児童生徒の学習進度や理解度に応じた個別の課題や教材が提供され、各々のペースに合わせた学びが可能になった。これにより児童生徒一人一人の得意分野や弱点に対応した支援を行うことができ、学力向上が期待できる。またデジタルツールを通じた協働学習では、課題に対する情報共有や意見交換が促進され、離れた場所でも他者と協力しながら課題解決が図れるようになった。授業におけるICT活用が拡大する中、授業づくりにおけるICT活用と学びの本質の両立が大きな課題となっている。ICT活用によって、個別最適化された学びと協働的な学びを充実させることで、児童生徒の問題発見解決能力が育成され、より深い学びが実現できるような新しい授業づくりの研究を各学校で進めていく。そのためにも、市内の学校が同じ方向を向いて授業研究が進められるように、市としても各学校への支援を強化したい。

#### (3) デジタル教材の活用促進と学習データの利活用

小浜市では、令和6年度から市内小中学校で共通のAIドリルを使用している。AIドリルの利活用率を向上させ、授業支援アプリを通してデータを集積し、児童生徒に応じた学習指導を展開したい。また、令和7年度からはデジタルテストを各校で試験的に導入し、学習データを活用した授業改善や教職員の業務改善の促進を図りたい。さらに児童生徒のタブレット端末の持ち帰りを促進し、家庭でのタブレット端末を利用した学習を定着させ、集積した学習データの利活用を家庭学習にも展開していきたい。